

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590400230		
法人名	有限会社 祐康		
事業所名	グループホーム鮎乃里		
所在地	秋田県大館市櫃崎字大道下27-1		
自己評価作成日	平成31年1月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成31年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>広く明るいホール内の移動が利用者様の機能低下防止し、一人ひとりのペースが保たれ、ゆっくりとした環境の中で生活をしていただいています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>施設のホールは広々としていて大きな窓があり、自然から季節の移ろいを感じる事ができる。施設内のあちこちには、施設の名前に因んで鮎の掛け時計が飾られている。理念にもあるが、利用者も職員も、のんびり、ゆったりと過ごしている。食事は温かい物は温かいまま、冷たい物は冷たいまま提供することにこだわりをもっており、時計と相談しながら食事の準備が行われている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し概ねできている	理念は認知症ケアの道しるべと捉え、理念をもとに利用者一人ひとりの望む生活は何かを考え、職員全員で取り組んでいる。理念を目の届く所に掲示し直し、新入職員が入社した際も研修を行うこととしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	年に数回ほどの交流	管理者が地区の新年会に参加したり、地区の公民館便りを毎月持ってきてもらったりと、地域との関係は確立されている。地域の文化祭への参加の他、ひまわりを植えたり、鮭の放流の見学等、地域の行事に参加し交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	民生委員の方たちと行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の開催し意見交換を行っている	行事を土日に合わせて欲しい等の意見が出されたことにより検討し、土曜日に行うようにしたりとサービス向上につながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を有効活用し、長寿課介護保険係とも連絡をとるようにしている	分からない事は直接市の職員に聞き、返答してもらっている。運営推進会議にも参加してもらっており、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修かいを行い、ケアに取り組んでいる	身体拘束の事例は無い。玄関の施錠は行っているが、外部から誰が入ってくるか分からない為、利用者の身を守るためのものであるとのこと。身体拘束の研修は年2回行われている。	「不審者侵入防止のため」に玄関を施錠するという対処を行っている。職員の見守りの方法を徹底し、鍵を掛けずに安全な暮らしができる等、適正化のための検討をする委員会を3か月に1回開催し、職員に周知を図る事に期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の声を聞き、職員一人ひとりの言動には注意をしている。何かあれば、その都度指導している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会を行い、必要時には関係者とも話し合いをしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明、契約内容の説明等、利用者や家族様にわかりやすいように説明するように心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に要望等を聞き、改善、実施している	一部の家族からしか意見を聞いていなかったが、意見箱の設置や質問用紙等何が良いか職員全員で考え取り組み、家族との会話が増えている。施設内では歩行が安定しているが、通院時等足元が不安定なこともあるため、家族より歩行訓練をして欲しいとの希望があり、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要意見を聞き改善、実施している	加湿器が必要との意見が出て購入したり、入浴が大変になってきたので、機械浴も現在検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に合わせた職務形態、就業時間の変更等を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間スケジュールに基づき施設内研修を実施し施設外研修はに参加させている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	意見の交換等をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安全な歩行方法や耳の聞こえにくい利用者様でも楽しめるレクリエーションを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ちょっとしたことでも、家族様に連絡や報告をするようにしている		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や茶碗洗い拭き、洗濯物干しを一緒に行っている		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と一緒に時間を過ごせるように声掛けを行っている		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方がいつでも面会に来れるように家族様にお願ひし、確認をしている	家族の協力のもと、同級生との面会や帰宅の他、家族とホテルに泊まったりしている。近くの郵便局ではなく、馴染みの郵便局まで行ったり、昔からの化粧品屋に行ったりと、馴染みの場所との継続ができるよう支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配慮や集まりやすいホールづくりを心がけている		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時等はこまめに面会、家族様との連絡をとっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が出来ることは職員が行い、出来ないところは家族様にお願いしている	何にでも「うん」と頷く利用者でも「ん」のニュアンスから気持ちを把握し、把握したことは申し送りノートで共有している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時になじみの物を持ってきてもらうようにしている		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状維持ができるように、いろいろな方法をためしている		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時等に利用者様や家族様と話し合い、職員は書式にて意見を出し合っている	居室担当者が24時間シートを活用し、半年ごとに見直しを行っている。何かあったら介護日誌に記録し、ケアプランに反映させている。書式に意見を出し合うように工夫したところ、今までは言いにくかった事でも意見として出せるようになったとのこと。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中や夜間の様子をできるだけ詳しく記録するようにしている		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居時前の生活をシートを活用して把握するようにしている		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時前からのかかりつけ医院は変更せず、かかりつけ薬局は家族様に了解をもらい変更し、薬局を一箇所にする事で関係が築けている	往診を利用している利用者は今のところ居ない。全員元々のかかりつけ医に受診しており、インフルエンザの予防接種等も、各病院にて行っている。変化があった時は都度家族に報告をし、特変ない場合は1ヶ月に1回受診報告を行っている。受診の内容は、日誌にて職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時や電話にて看護師に相談をすることしか出来ていない		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は連携室をとおして情報の共有を行っている		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師の確保ができない為、利用者様のかかりつけ医院等をお願いをしている	身体的な重症化は対応可能だが、医療的ケアが必要な看取りは行わない方針で、入居時に説明を行っている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応できる職員が少なく、対応は管理者で行っている		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	指定の避難所への移動訓練を実施している	年に1回、水害想定時の指定避難場所である地区の公民館に避難している。火災や水害などの訓練を実施している。発電機も装備されており、停電の際にも備えている。3日程度の備蓄も確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の立場に立ったケアを心がけているが、口調のあらい職員もいる為、その都度指導している	入浴は同性介助にて行っている。利用者の状態や性格への対応については、日々申し送りで共有している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定力に応じ、選択方式等法の方法をとっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴等も気が進まないときは、次の日にしたりしている		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等のコーディネートを一緒にしている		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一回の外出や行事食、もやしのひげ取りや片付けを一緒にしている	曜日によって、ご飯の日、麺類の日、カレーの日と決めており、利用者で「今日は何を食べたい？」と会話の中から、献立を決定している。ゆで卵等、切り方の工夫をし、誤嚥の無いように配慮している。誕生日には職員がケーキを手作りし喜ばれている。禁忌食や嫌いな物の代替えを行っている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日5回の水分補給や一人ひとりに合わせた食事の量を提供している		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は洗面所で口腔ケアをしている		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの間隔をみて声掛けをしている	介護日誌についているチェック表を使用し、2時間毎に声掛けを行っている。排便についても薬にばかり頼らず、毎朝ヨーグルトを食べたり、お茶にオリゴ糖を入れたり工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供し、おやつ前には体操をしている		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日と時間は決められているが、気が進まない時や、体調の悪いときは別の日にしている。ゆっくり入浴してもらえるように、入浴時間をもうけている	職員不足もあり、入浴時間は午後のみとなっている。又、(水)(土)は買い物等があるので、基本的に入浴は行っていない。週2回は入浴出来るよう支援しており、受診の前日にはなるべく入浴してもらえるよう配慮している。現在は、リフト浴の設置を検討中である。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息中は無理に起こしたりせず、過ごしてもらっている		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬一覧表等を作成し、全職員がわかるようにしている		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗洗い、茶碗拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ等を役割分担している		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたりしている	受診時や外食の帰りにお店に寄り、買い物を楽しんでいる。春は花見、秋は紅葉等、ドライブも楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に、お金を渡し買い物の支援をしたいと思っている		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員がかけて利用者様につなぐようにしている		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の広いホールを自由に過ごせる場所確保している	ホールの作りが、部屋から出てきた時にホールに集まれるようになっている。又、ホールは広く、ごはんを食べる所と、ゆっくりとくつろげるスペースに分かれている。平日は清掃の職員を採用しており、綺麗で清潔感のある空間となっている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いホールの中で一人で過ごせる場所と利用者様同士で過ごせる場所を作っている		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとタンス以外は今まで自宅で使用していた物を持って来てもらっている	入居時に家族からアドバイスをもらいながら本人と居室内のレイアウトを考えている。居室は利用者の家と考え、基本的には入居時のままのレイアウトで過ごされている。居室内も清掃の職員がいて、毎日掃除されている。居室前には利用者と職員と一緒に作った季節の飾りが掲示されている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールが広いこともあり、居室の入口に目印をつける等の工夫をしている		